



学校教育目標

自 ら 学 ぶ 子



「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

5月号 令和8年4月30日

「あいさつ」から始まる学校

校長 金子 博美

正門にある桜の木も、緑が色濃くなりました。高台にあるせいか、校舎を出るとさわやかな心地よい風を感じます。校長室の窓からは、広い校庭で元気に遊ぶ子どもたちの姿がよく見えます。体育館から、体育の学習や掃除に一生懸命取り組む子どもたちの声もよく聞こえます。隣にある職員室を訪ねてきた子どもたちや亀の世話をしている委員会の子もたちと話をする機会もたくさんあります。着任から一か月、浦島小学校の校長室は、子どもたちと一緒に過ごしていることを実感できる場所だと、日々うれしさを感じています。

朝は、登校する子どもたちを門で迎えるようにしています。まだまだ全校の子どもたちと十分にかかわることができないので、とても大切なひと時です。元気よく「おはようございます!」と言う子、にっこり微笑む子、丁寧に辞儀をする子など、その姿は様々です。だんだんに、立ち止まって私としっかり目を合わせたり、あいさつの言葉と同時にハイタッチをしたりする姿も増え、少し前まで恥ずかしそうに軽く頭を下げていた子も、会釈の時にこちらに視線を向け、「おはようございます」と返すようになってきました。「あいさつ」を交わす瞬間に子どもとつながったような感覚を日々味わい、「あいさつ」は、コミュニケーションのはじまりであることを実感しています。

4月28日(火)、初めての全校朝会をテレビ放送で行いました。「校長先生は、この学校をよい学校にしていきたいです。そのために、まず「あいさつ」をみなさんとがんばりたいです。一人ひとりができるようにすると、それだけでも学校がよくなると思っています」という話をしました。それぞれの教室での子どもたちの反応を気にしつつ放送室から校長室に戻りました。1時間目が終わるころ昇降口のそばを通ると、「校長先生、おはようございます」と数人の声がしました。体育が終わり、校庭から戻ってきた2年生でした。「おはようございます。とても気持ちのよいあいさつです。テレビの朝会で話したこと、わかりましたか」と返すと、「ありがとうございます」「わかりました!」「はい、あいさつをがんばります」と、さらに明るく元気な答えが返ってきました。その日は、中休みや下校の時に会った子どもたちも、いつもより進んであいさつをしようとしている子がたくさんいました。その一人ひとりの姿から元気をもらい、私も精一杯の笑顔とあいさつを子どもたちに返しました。これから学年ごとに「あいさつ目標」を決め、子どもたち自身、気持ちのよい「あいさつ」を身に付けるために取り組みます。その様子も見守り、励ましていきたいと思っています。

学校説明会でもお話しさせていただいたとおり、「あいさつ」は相手の存在を認める行動であり、みんなの中の一人として「自分もそこにいる」という安心感につながると考えます。「あいさつ」を交わすことによって互いの存在を認め合い、安心を与えることができるよう、これからも「あいさつ」からはじまるかわりを大切にしたい学校でありたいと思っています。